

Camponotus japonicus

Mayr, 1866

クロオオアリ

東アジアの野原や公園にすむ、がっしりとしたつやのない黒色の大型種で、ゆっくり成長しますが、同じ女王アリのもとで長年続くことがあります。



写真：ippanjin, CC BY 4.0

ひと目でわかる情報



巣の温度
22-28 °C
巣の中



巣の湿度
50-70 %
巣の中



休眠
8-12 °C
11月 - 3月



結婚飛行
4月 - 6月
雨のあと、暑い日、穏やかな天気



働きアリ
6-12 mm
大型働きアリは最大14 mm



女王
15-18 mm
女王は1匹



コロニーの規模
働きアリ1,000匹規模
成長速度：普通



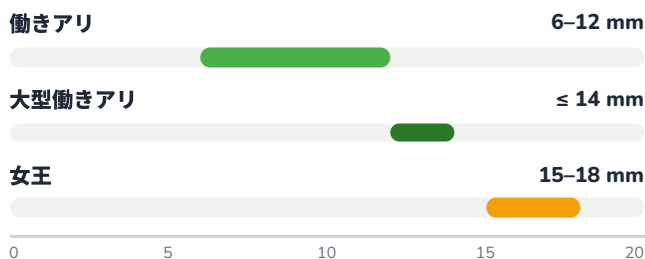
脱走リスク
中程度
アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう

1年をひと目で



この種の出産地での月です。正確な日は天気で決まり、室内で飼育しているコロニーは別のリズムになることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

砂糖

昆虫

おすすめの巣

- Ytongの巣
- アクリル製の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ⚠ 好奇心が強い働きアリなので、アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう

飼育者からのメモ

ヒント

日本の飼育者がしているように、晩秋から早春にかけて、暖房のない部屋や、日陰の風雨を避けられる場所などで、コロニーに涼しい冬の休息をとらせましょう。アリは身を寄せ合ってたまり、たいい餌は必要ありませんが、巣を乾燥させてはいけません。暖かく保ったコロニーでも、冬にはしばらく動きが鈍り、ブルードの発育が止まる傾向があります。

注意

立ち上がりはゆっくりだと考え、コロニーを急いで大きな巣へ移さないでください。アリは大きすぎる巣を嫌いますし、飼育下の若いコロニーの中には、何か月も成長が止まるものもあります。ブルードと働きアリが今のスペースをいっぱいにしたら、少しずつ段階を踏んで広げましょう。